

— 市民がつくる市民のための地域環境情報誌 —

# エコライフみしま



第 11 号  
2008 / 5 / 1

知っていますか？

市の鳥「かわせみ」市の木「いちよう」市の花「三島桜」



- 特集「食育」、お江戸でござる（三嶋暦）…P 2, 3
- 環境活動紹介（エコリーダーの地域環境活動）…P 4

### 三島の農産物ベスト5（作付面積）

1 米（水稲） 234ha	2 キャベツ 51ha	3 サツマイモ 50ha	4 白菜 47ha	5 大根 46ha
------------------	----------------	-----------------	--------------	--------------

平成18年度実績



### 三島の農産物ベスト5（産出額）

1 豚 9.9億円	2 生乳 3.0億円	2 トマト 3.0億円	4 米 2.7億円	5 ホウレン草 2.4億円
--------------	---------------	----------------	--------------	------------------

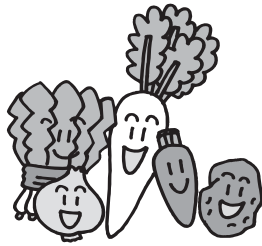
平成18年度実績

「静岡県の生産農業所得統計」  
（静岡農林統計情報協会）より

## 食育は三島の おいしい農産物で

食育を環境の面から見ていくと、なるべく地のものを食べることが大事だと気がきます。三島は箱根西麓野菜をはじめおいしい農産物がたくさん取れるところですよ。おいしいものを食べて、それがそのまま健康や環境を考えた生活につながります。

今回は、そんなエコな食生活に関わる何人かの方を紹介していきます。



## 野菜本来の味を満喫しています

まずは、箱根西麓野菜等の愛好者、川口芳枝さん(三恵台)にインタビューしました。



**Q：箱根西麓野菜等、地場のものを愛好されているようです。**

A：はい。「新鮮」と「安心」を地元で買っています。

**Q：その魅力や内容をもう少し教えてください。**

A：新鮮で取れたての野菜、旬の野菜を買うことで、野菜本来の味を満喫しています。また、生産者の顔が見えることが、何よりも安心ですね。

**Q：虫食いの野菜も気になさらないようです。**

A：虫が食べるほど新鮮でおいしい！と解釈して、逆に安心かなと思っています。

無農薬野菜を愛好していますが、多少高くても食の安全には変えられませんし、捨てるところが少ないのでかえって割安になる場合もあると思います。

お茶なども粉にして全部いただいたりしています。



箱根西麓野菜等を通じて、お店や友人・知人の輪は着実に広がっている様子でした。

## 三島の野菜に愛着を持ってほしい



次に、生産者の方にお話を聞きました。本間一平さんは笹原で主に青首大根、ミニトマトを生産している篤農家です。

**Q：生産者としての苦労や夢を聞かせてください。**

A：常に新鮮でお客様の要望にあった野菜を作り続けることが夢です。

苦労といいますが、大根ではスーパーは小さめ、旅館には大きめのものといったように、出荷する先により、サイズ等のお客様の要望が異なり、それらに答えていくことです。

また、ミニトマトはハウス露地栽培をしています。露地栽培を好む年代層、水耕栽培を好む年代層に分かれ、消費拡大に難しい面があることです。

**Q：地産地消・旬産旬消・食育についても取り組んでいると聞きましたが。**

A：大根をメインの食材として産業界、日本大学と協同で「おおね御膳」という駅弁を作りました。食育が広く市民に理解されることにより三島市で作られる野菜にもっと愛着を持ってほしいと思います。



自家製の堆肥で味には自信があります。

## 土づくりに全力



続いて、三ツ谷でニンジンなどをつくっている細井憲子さんです。

**Q：特にニンジンづくりに力を入れている点、こだわりなどはありますか。**

A：私の畑は、化学肥料や農薬を使用していない農地として有機JAS（国の定めた規格）の認証を受けていますので、そこでとれるニンジンの安全性には自信があります。また、ニンジンが本来持っている甘みをどうすれば引き出せるか、20年にわたって工夫を重ねてきましたが、どうにかこの目標に近づい



てきたように思います。

Q：ご苦労も多かったのではないですか？

A：化学肥料や農薬をまったく使わない農法など、と受け入れてもらえなくて、つらい思いをしたこともありました。でも、最近は外国に頼る食品への不安も指摘されているので、有機野菜の価値はいつそう増してきたように思います。

Q：消費者の皆さんへのメッセージをお願いします。



土作りをずっと追求してきました。

A：土作りに全力を尽くす有機栽培の大変さを理解していただくことで、高価な事情もわかっていただけるのでは…。特に、子育て中のお母さんにはお子さんが小さいときから、安心安全、そして新鮮な野菜を食べさせてやってほしいですね。

### 我が家の有機栽培実験畑

最後に、一般のご家庭で野菜作りを実践している長川祐子さん（青木）を紹介します。



Q：自宅の庭で野菜を作っているそうですね。

A：6畳ほどの畑で野菜を作っています。今から13年前、EM菌のボカシで生ごみを処理し肥料として使う農法を知り野菜作りを始めました。

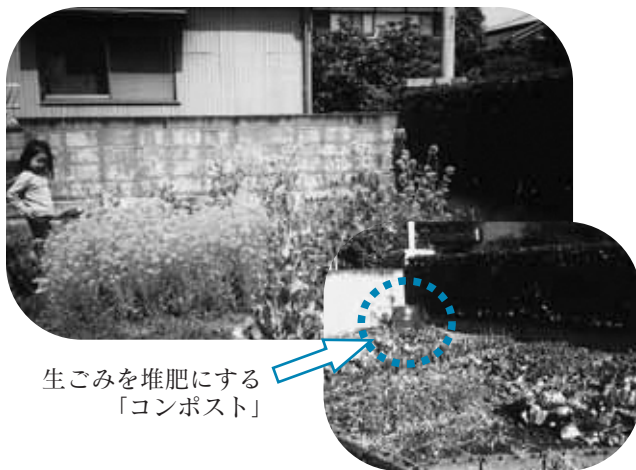
Q：どんな作物を作っているのですか。

A：春には葉もの、夏にはナス、キュウリ、冬には白菜や大根など季節にあったものを収穫しています。畑で採れない野菜もあるので有機栽培をしている農

家から週1回、野菜を配達してもらっていますが、たくさん採れたときには近くに住む子供の家族にも食べてもらっています。

Q：ずいぶんと熱心に畑仕事をされているようですね。

A：この畑は生ごみ堆肥のみでどこまで出来るか試している「実験畑」なのです。



生ごみを堆肥にする「コンポスト」

生ごみ堆肥で甘みの濃いおいしい野菜が採れます。

### 環境クイズ



(1)三島市のホームページで紹介している「食」に関連した四字熟語について、空欄に入る文字は何でしょう。

- ① 身○不○ 四里四方（約16km四方）で採れるものを食べることが健康に良い
- ② ○産地○ 地域生産、地域消費を短くした言葉で、地域で採れた生産物を地域で消費する
- ③ 旬○○消 旬の野菜を旬の時に食べる

(2) 三島市の農産物で作付面積の大きい作物は？

(3) 同じく、産出額の多い農産物は？（牧草を除く。）

ちょっと意外なものも上位に入っています。

…クイズの答えは表紙にあります。

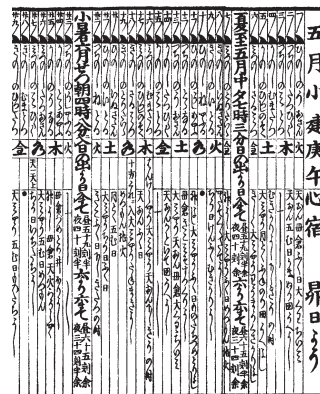
### お江戸でござる <sup>みしまごよみ</sup> 三嶋暦～旧暦がおしえてくれる日本の伝統と自然のリズム

鎌倉時代の頃から明治16年まで、三島の河合家により製造販売されていた三嶋暦は仮名文字で印刷された暦（カレンダー）としては、日本で一番古いものだろうといわれています。

江戸時代の末期には発行部数約450万部（当時の人口約2,800万人）で、一家に一つはあったといわれています。また、文字が細かく美しいことで知られ、「三島名物」として旅のみやげやお歳暮としても人気があったそうです。

30にも及ぶ豊富な記載内容は、季節の移り変わりを知り、農作業や日々の暮らしの指針を得る重要な情報源として、人々の生活に大きな影響を与えてきました。例えば、「現代版・三嶋暦」平成20年6月15日のところには「蛙の声賑やかなる」と書かれています。

（図は三嶋暦天保15年の旧暦5月。河合龍明氏蔵）



## 環境活動紹介 エコリーダー活動会議 全体会 (H20.3.26)

3月26日(水)に「エコリーダー活動会議全体会」が開かれ、地域で環境活動に取り組むエコリーダー26人が集まりました。これは、約1年前に開かれた地域の環境を考えるワークショップ「エコリーダー活動会議」参加者を中心に、1年間市内各地域（北上、旧市内、錦田、中郷）で行われてきた環境活動をさらに発展させていくために開かれたものです。

はじめに4地区から活動についての発表が行われ、続いてグループに分かれ「参加者の増やし方」、「地域（自治会など）との関わり方」をテーマに設定し、それ

ぞれの地区で抱える課題について意見交換を行いました。

この意見交換会では、なかなか活動が広がらない、という課題に対してさまざまな提案が出され、小さい活動でも継続し、周囲への呼びかけも続けていくことが大事だ、との意見も出ました。

また、いままで4つのグループが個別に活動していたので、情報の共有や活動交流もしていきたい、という提案がありました。

### 1年間の各地区での主な活動

#### 北上地区

- ・ 沢地川ウォーキング
- ・ 地域花壇づくり（沢地川沿い）

#### 旧市内地区

- ・ 環境パトロール（毎月第1土曜日）
- ・ 小学生向け環境学習

#### 錦田地区

- ・ 山田川自然観察ウォーキング
- ・ 環境マップづくり

#### 中郷地区

- ・ 御殿川・大場川ごみ拾いツアー
- ・ パサディナ地区ごみ拾いツアー

### 意見交換会での主な意見

- ・ ごみ拾いをするときは自然観察会などと組み合わせるなど、楽しく参加できるようなものになるよう、工夫する。
- ・ 見る人が興味を引くようなチラシ作りを心がける。
- ・ 子どもや学生に参加を呼びかける。
- ・ 活動も呼びかけも継続していくことが大事。
- ・ 環境美化推進員等との連携を考える。
- ・ 4地区での交流を進める。



### 【編集後記】



安心・安全な土を作る人。家庭菜園を行う人。マンションのベランダで野菜を作る人。それから、安心・安全な生活のために三島に移り住み、有機野菜を探し求める人。このような沢山の人たちに支えられて、箱根西麓野菜は育ってきたのだなと感心しました。今後も安心・安全のため三島に移り住む人が増えることを祈ります。折りしも、餃子事件で日本中が大騒動です。(し)

### 編集スタッフ（市民ボランティア）

飯田喜一・岩田明彦・大村洋子・河嶋禧男・佐伯忠夫・柴原俊介  
重間良子・鈴木忠宣・鈴木祥子・永嶋章吉

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/> / (広報みしまと一緒に掲載中)

### 第11号（5月・10月の年2回発行）

平成20年5月1日発行  
〒411-0858 静岡県三島市中央町5-5  
三島市役所中央町別館  
環境政策課内  
「エコライフみしま」編集事務局  
TEL：055-983-2647  
FAX：055-976-8728  
E-mail:kankyout@city.mishima.shizuoka.jp

古紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この再生紙も、さらに再生可能な資源古紙です。